

令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 大里柳 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和元年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

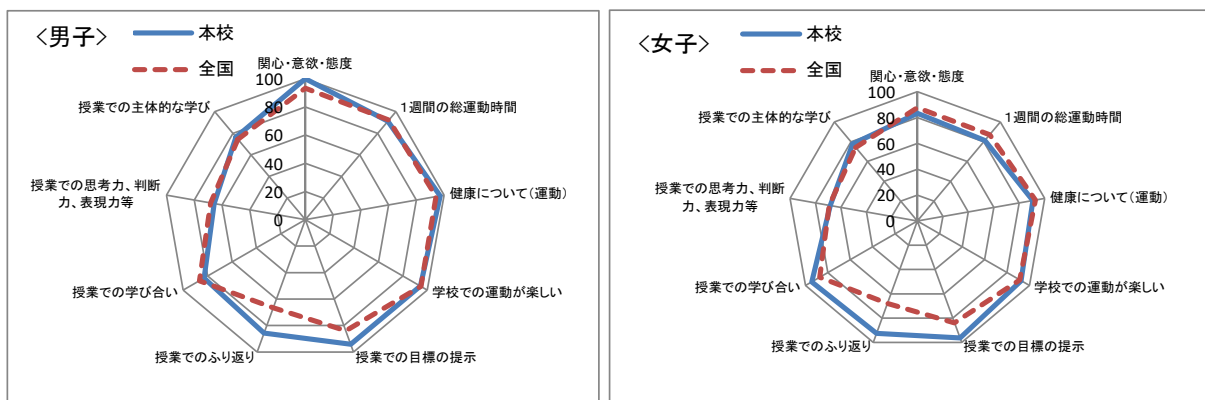
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61	53.61
本市	16.56	20.49	33.51	42.17	52.49	9.39	153.34	22.91	54.52
本校全国平均以上の種目		○			○		○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61	55.59
本市	16.49	19.55	38.14	40.49	42.02	9.64	147.47	13.79	56.34
本校全国平均以上の種目			○						

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

・「体力テストの結果や体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている」「授業の最後に学んだ内容を振り返る活動を行っている」と答えた児童が全国平均を上回っており、児童が主体的に学ぶ姿勢を育むことができている。
 ・「運動やスポーツが好き」「運動やスポーツは大切」という運動に対する意欲面について問われた質問については、個人差が見られる。
 ・「学校の体育の時間以外でも運動やスポーツを行っている(1週間に60分以上の割合)」と答えた児童が全国平均を下回っており、1週間の総運動時間の確保に課題がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○「素早さ」「柔軟性」「持続力」「タイミング」「力強さ」をバランスよく底上げしていくようにするために、以下の取組を行う。
 ・どの学年も授業の内容に合わせて3~5分間の準備運動を取り入れる。
 ・「北九州市体力向上プログラム」を活用し、ジャンプアップ運動やラダートレーニング等がいつでも行えるように、行い方を体育館等に掲示する。
 ・日常的に遊びを通して体力向上に繋がる場の設定をする。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

○運動に興味・関心をもち、親しむことができるようにするために、2020東京オリンピック・パラリンピックを切り口にした、年間を通じたPDCAサイクルを構築する。
 (例:体力の課題を示す掲示物→日々の運動・マラソン月間の設定→実施→1つの発表の場としての運動会→新体力テスト→日々の運動・なわとび月間の設定→実施・・・)